

○議長（初村 久藏君） 日程第1、会派代表質問を行います。

本日の登壇は、2会派を予定しております。

それでは、通告により発言を許可します。対政会、13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、おはようございます。私ごとではございますが、病み上がりでございますので声が聞き取りにくいかなと思っておりますが、意図するところを察していただき、よろしくお願いしておきます。

会派對政会の波田政和でございます。議長より、発言の許可が出ましたので、会派代表質問に入ります。

本題に入る前に、現在、対政会は大浦孝司議員を代表としまして、小島徳重議員、小田昭人議員、私、波田政和の4名で各種提案に対し、日々活動しておりますが、会派の取組でもありました、原子力発電環境整備機構による旅費負担で、各施設見学会参加依頼を受け、公人として、議会同会として、自分たちで制定した対馬市政治倫理条例を基本に調査研究を行い、整備機構職員の方へ、必要とあらば、政務活動費を利用し、公人としての見識を深めると、会派としての意見、回答をしておりました。

そんな中で、13名の対馬市議会議員の方々が企業による寄附を受け、視察研修に参加されたことが判明し、対馬市政治倫理条例第3条第1項第4号に抵触する旨、外部見識者で構成されている対馬市政治倫理審査会で最終報告がなされております。

今後、どのような展開になるかは、私どものあずかり知るところではありませんが、私は、議長へひとつお願いがあって、わざわざこの話をしております。

議長は我々合議体の長として、事の重大さを認識しながら、謝罪をまずすべきではないかと私は思っておりますが、議長の見解をいま一度尋ねたいんですけれども、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 今ですか。

この7日に議員全員協議会をいたし、いろいろ協議をしてから謝罪をしなければいけないときになったら謝罪をしなければいけませんし、皆様の意見を聞きながら対応していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

さすが、我が市議会の議長さんの言葉です。そのとおりでございます。

しかしながら、昨日も冒頭そういう話を市民の方は期待しておられました。なぜこの話をわざわざするかというと、今までも例もない話です、こういう話は。しかしながら、市議会として、事の善悪は別としまして、まず最初に世の中を騒がせたということを真摯に受け止めながら、最初に市民の方々へ伝えるべき案件ではなかったかなとこのように思っておりますので、今、議長がやるべきことは、まず謝罪なんですよ。

これはなぜかといいますと、行政運営での不祥事は全て市長が謝罪しております。まして冒頭になれば、当然のごとく、議会運営での出来事は、不信感を抱かれたならば議長が代表してまず最初にすべきではないかと私は思っておりますが、いかがでしょうか。もう一度お答えください。

○議長（初村 久藏君） さっきも言いましたように、私個人で議長としてどうのこうのじゃなくて、やっぱり皆さんの意見、意向を聞きながら対応していかなければいけんと私は考えますので、現在に至っております。

以上です。

○議員（13番 波田 政和君） 続けます。分かりました。

私の認識では、議長さんは一議員と違って市議会を代表してあります。その意味も含みまして、今後このようなことがあることがあったら、まずそういった先手を取るといいですか、まず皆さんに理解していただけることを最優先すべきかなと私なりに思いましたので、あえて申しておきます。では続けます。

市長、思い起こしますと、比田勝市長とは、副市長時代から、立場の違いはありますが、長きにわたり共に対馬市のために取り組んできておりましたが、成果として、市民皆様に納得していただける答えを出しているのかということに対し、不安に思っております。

しかし、我々会派一同、毎日が挑戦だとの思いで最善を尽くしており、市長におかれましても、現行法で地方自治のトップとして、対馬の未来永劫の安心、安全を思う使命から、原子力高レベル放射性廃棄物処分場建設誘致反対声明の英断を高く高く評価している次第でございます。どうぞ、最終、最後まで貫き通していただけるための秘策の確立を期待しております。

今回の会派代表質問は、通告書のとおり、3項目についてお尋ねします。

まず初めに、通告1としまして、対馬市民の生活と考え方をも分断しかねた重要な課題案件に対して、会派對政会においては、分裂・解体も視野に入れ、調査研究に取り組んだ結果、同一歩調で案件に挑むことができ、分裂をも身近に感じられた案件でありましたが、比田勝市長の勇気ある推進反対の英断で一定の結果が出ました。さらに深掘りして市長にお尋ねし、安全と安心ができる対馬づくりの方向性を対馬市民が納得できる形での終止符を打つ打開策を求めます。

また、通告2としましては、これまでの実績、成果など端的にお答えいただき、3選へ向け、比田勝尚喜氏の市長人生総仕上げの取組などをお尋ねをしたいと思っております。

通告3としましては、比田勝市長就任から、回数としては約8回にわたり個人質問してまいりましたが、今任期中、一定の方向性を出すとの御回答をいただいておりますので、今回からは会派での取組課題と捉え、共通認識の下、取り組みたいと思っております。

この課題は、対馬の方向性を決める最重要課題であり、内部や外部での検討委員会で素案が決定されたようでありますので、重ねて市長のお考えをお尋ねしたいと思っております。

総括といたしまして、全項目で明確なる御答弁で諸施策に取り組んでいただき、リーダーシップが発揮できているという評価で、次の目標達成のため、市民に答えを出してもらえるもの信じ、期待しております。

また、詳細につきましては、再質問の時間にでも詳しくさせていただきたいと思っております。

以上3点について大きくお尋ねしますが、明確なる御答弁と簡単明瞭によりしくお願いします。では、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。対政会、波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致に向けた文献調査受入れ反対表明における今後の取組と対応について答弁させていただきます。

最終処分場を誘致した場合の交付金20億円を上回る経済効果への取組について、何か考えがあるのかというような質問だったというふうに捉えておりますけれども、今後の財源確保に向けた取組の方向性について、恒常的な財源確保と臨時的な財源確保の2つの観点から答弁させていただきます。

まず、恒常的な財源確保に向けては、これまでも答弁させていただきましたが、トップセールスによる企業誘致を推進しながら、雇用の場創出と併せた税收確保に向けた取組を進めたいと考えております。特に、SDGsの推進に関連した企業誘致の案件が出始めており、その分野を重点的に取り組んでまいります。

また、対馬市を訪れていただく観光客を対象に、対馬の歴史と文化、自然等を将来的に維持・存続をしていくために、観光客の理解を得ながら、またSDGsの考え方と掛け合わせながら、何らかの一定の御負担をお願いできないか検討してまいりたいと考えております。

次に、臨時的な財源確保といたしましては、企業版を含めたふるさと納税の拡充であります。返礼品を伴ったふるさと納税につきましては、2億円強の寄附をいただいておりますが、寄附者のニーズに応じた返礼品の改善、充実などを含めて取組を強化してまいります。

また、市の遊休資産につきましては、将来的な活用方法などの検証を行いながら、不要な財産については民間への売却等を進めながら自主財源の確保を図っていきたいと考えております。

以上が今後の財源確保に向けた取組の主なものであり、交付金以上の新たな財源を生み出すものと考えており、その他の施策でも、まだまだ財源確保に向けて取り組めるものもあると思われるので、将来的な財源の確保、安定に向けて取り組んでまいります。

次に、文献調査の受入れについて、市民の合意形成が調べば、高レベル放射性廃棄物最終処分場における文献調査を受け入れるのかという質問でございますが、私個人の考え方といたしましては、市民の合意形成がどこまでかという疑問はあるところではありますけれども、このような

超長期的な事業であるわけですので、市民、そして対馬の将来的な安全性が担保できるかが重要であると考えており、直ちに文献調査の受入れの検討を行うことは考えておりません。

事業実施における各工程のリスク管理や事故発生における対応、体制の整備、地層処分の科学的根拠の確立などの課題の払拭が必要であり、そのことが国民、対馬市民の理解につながるものと思っております。そのような課題の対応については、短期的にできるものではないと思われるので、私としては3期目の挑戦を含め、市長任期中については文献調査を受け入れないという方針で取り組ませていただきたいと考えております。

次に、2点目の市長選挙出馬における考えでございますが、まずこれまでの市長としての検証につきましては、初めに取り組んだのが、ふるさと納税返礼品制度の導入であります。対馬産品等のPRと新たな財源確保の観点で、平成28年度から導入し、市内産業の活性化などに一定の効果が生まれていると思っております。

次に、有人国境離島法施行に伴った各種事業の実施であります。

航路、航空路の運賃低廉化、輸送コストへの支援、雇用拡充支援事業の実施、滞在型観光に向けた事業の展開など国が創設した法律、事業を十分に活用し、制度の組み立てを行っており、地域経済への貢献は大きなものがあつたと思います。

次に、観光関係では、対馬博物館とリンクした朝鮮通信史歴史館の建設や朝鮮通信史に関する記録のユネスコ記憶遺産への登録、観光等と連携した中対馬未来づくりアクションプラン及び厳原南部地域アクションプランの策定など歴史的な資源や地域と連携した観光づくりに取り組んでおります。

その他、計画的な魚礁の設置やJR九州高速船の混乗便問題の解決、GIGAスクールの構築と学校へのタブレット配付、特別支援学校の開校——これは令和9年度からの開校予定となっております——コロナ感染症対策の実施や休止した韓国国際航路の再開、SDGs未来都市の選定と推進など、市の現状に応じた施策や将来を見据えた施策を講じてまいりました。

次に、今後3期目において展開すべき施策についてでございますが、誰一人取り残さない持続可能なしまづくりをコンセプトとして、移住・定住施策の拡大、婚活や出会いの場の増設、特定地域づくり事業協同組合を活用した担い手の拡大、出産と子育て環境の充実、離島留学制度の拡大と充実、通信環境の改善・充実によるワーケーション等の推進と誘致企業の促進、SDGs推進による持続可能なしまづくりなどを柱として取り組み、その取組との相乗効果で人口減少に歯止めをかけてまいりたいと考えております。

また、先ほど述べましたこれまでの市長としての検証の施策においても、まだまだ手を加えながら、拡充・充実を図っていかなければならない事業もございます。市民の御意見や議員皆様の御提案等に耳を傾けながら、対馬市の発展に尽力してまいります。

次に、3点目の対馬市本庁舎の位置と厳原庁舎の関連性についてでございますが、初めに、厳原庁舎の現状を御説明いたします。

耐震基準を満たしていないとの結果を受け、令和元年度に市職員で構成いたします厳原庁舎整備等に係る内部検討会議を設置し、検討を重ね、令和4年5月に検討内容の報告を受けております。また、市民皆様の意見を広くお聞きしたく、委員を公募いたしまして、公募委員2名、推薦委員4名、各種団体の代表5名、市職員5名の計16名による市役所厳原庁舎整備等検討委員会を令和5年3月に設置いたしました。この委員会での検討内容の報告を、この11月に受けております。この2つの検討委員会で検討いただいた内容、意見、要望等を基本に方向性をお示したいと考えております。

まず、2つの委員会で検討いただいた主な内容といたしましては、1点目として耐震補強工事を実施し、現庁舎を今までどおり使用するのか、新築建て替えを実施するのかということでございます。

2点目といたしまして、新築建て替えを実施するなら組織の体制を今までどおり本庁機能分散方式にするのか、本庁機能集約方式にするのかであります。

3点目といたしまして、本庁機能集約方式とした場合、本庁舎として建て替えをする場所、地域をどうするのか、この3点を検討していただきました。

以上、この3点の検討結果を真摯に受け止め、私の現在、考える厳原庁舎の今後の方向性として、1点目といたしまして、庁舎の新築建て替えを実施する。2点目といたしまして、原則、本庁機能集約方式とする。3点目といたしまして、厳原市街地で本庁として建て替えを実施する、であります。このことを基本として今後、進めてまいりたいと考えております。

また、防災拠点の在り方は、今回は質問はなかったので省略させていただきます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 対政会、13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 丁寧な御答弁ありがとうございます。

では、質問項目の順番を変えまして、先ほど最後にお話がありました本庁舎について、先ほどから今までの経緯の説明がありながら、るる説明がございましたが、要するに、支所機能を充実して本庁舎を厳原市内に建てるということでよろしいでしょうか。もう一度、そこを詳しく説明してください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在、この検討委員会での御意見を踏まえまして、私個人といたしまして判断していることでございますけれども、今後このことで議会の皆様とも協議も進めてまいりたいと思っております。

まず1点目といたしまして、新築建て替えを実施するということでございます。

2点目といたしまして、本庁機能集約方式とするということでございます。ただし、この中で委員の方からも話ございましたけれども、例えば、教育委員会等は、どうしても全島を回る上からも、やっぱり今現在の中央部に置くことが望ましいという御意見も承っておりますので、こちら辺も併せて考えてまいりたいと思っております。

それと、この庁舎を建て替える場合は、厳原市街地の中で本庁として建て替えを実施したいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。冒頭にもお話ししましたように、長年の個人質問を通しての案件でございましたが、やっと方向性が政治的約束どおり、市長の任期期間中に方向性を出すとの約束を守っていただき、ありがとうございます。

この問題は、大変大きな課題があることは重々知っております。大型事業が続く中で、いろいろな財政も含めまして大変であるという話はずっと聞いてきております。しかしながら、どこかでやらなくちゃいけないということも常に考えてあると思います。

市長、私がいつも市長に言う決断なんです。私どもが市長にお願いするのは、そこだけなんです。だから、今後また次の展開で総仕上げをするということに挑戦されるなら、やっぱり何かそういういったものをリーダーシップを発揮したんだと言えるようなものに取り組んでいただきたい。

私は、まさにこれが形あるものといいますか、厳原市内を見てというわけではございませんけれども、無駄な公共事業はたくさんあります。国も県も含めてです。しかしながら、一貫性として何かがあるからしてあるんじゃないかなと理解はしております。だから、ここに至るまでは相当な時間がかかりました。2期8年です。私は、くどいですが、初めからその話をしておりますが、あの手この手を使われながら、ずっとかわしてこれながら、現在を迎えております。しかし、ここに来たらどうしようもできないということの判断だろうと思います。

検討委員会が結論を出したわけですから、市長が皆さんを巻き込んでという考え方はもうクリアしたと思うんです。だから、あとは市長の判断力が左右すると思っております。ただし、幾ら市長が頑張ると言っても次がなければ先に移りません。だから、それも含めまして並々ならぬ決意が大事じゃないかなと思っているわけです。

市長、決して楽で3期目の市長になれるわけじゃないです。分かりませんよ、それは。だから皆さんと一致団結しながら迎えるべきじゃないかなと。まして対馬市、20周年です。その節目を飾る比田勝尚喜はどうあるべきかということは、私が言うまでもないと思います。

そういったことを踏まえまして、市民の方々が、やっと20年で本庁舎が建つんだなという思

いを、周知徹底の理解ができたなら、また楽しみもありながら責任世代を背負う青年たちも決意を新たにするんじゃないですか。そういった指導性も含めまして、今後ともよろしく願いしておきます。いいですか、頼みます。

先ほど若干触れられましたけれども、私は合併そのものが集中型で、一極でやりなさいと決めているわけではありませんけれども、やっぱり合併は何のためにやったのかということなんです。やっぱり、指揮系統が分散すると私も賛否両論ある中で、今日も議場にこれだけの人がおられますけれども、どれだけの人間が豊玉を向いて動いてきますか。そういったことを考えたら、中枢であるところが空洞化することもあるのかなと思っておりまので、検討課題として集中でコントロールができるだけのものを造っていただきたいな、これは希望しておきます。

市長が先ほど言いますように、自分の任期中のお約束ができたということで大変喜ばしいことなんですけれども、実現に向けて次の展開をやっていききたいなと思っておりまので、よろしく願います。

それでは、実現するために、3期目へ臨む報告についてを質疑したいと思います。

通告していなかったですか。市長選3選へ向けての報告についてしているはずですが。首をかしげることは、要らんじゃないですか。だから、もう次の質問に入ってよろしいかと尋ねています。いいですか。

それでは、繰り返します。先ほど順番を変えましたので、こんがらがってあるかも分かりませんが、今回の問題は、あくまでも関連しておりますので、こういう流れになりますのでよろしく願います。

次に、市長3選へ臨むという報告がありましたので、我々対政会の評価としましては、1期目は前任者の引き継ぎで明け暮れ、可もなく不可もなくの行政運営であったものと評価が先行し、政治力の発揮が出し切れなかったのではないかと考えております。しかしながら、報告のとおり、ふるさと納税に力を入れたんだという話も理解はしております。

が、行政マン人生で培った信用で2期目も挑戦を勝ち取ることができました。信用でできました。しかし、もろもろの課題、問題が多発する中で政治家の判断及び決断とタイミング、スピードの重要性を痛感した2期目であったと我々会派は理解をしております。

しかしながら、我々対政会といたしましては、物事に是々非々の見解の立場で取り組んでおり、今後も変わることなく進んでいきます。これは、あくまでも会派の評価であり、比田勝市政を批判するものではございませんから申し添えておきます。

そういった中で、今後、出馬の決断、前に前に進んでいくわけですが、諸問題が山積する中でありますが、見事勝ち取っていただきたいものです。

対馬市民は、政治判断、決着を求めています。現実的に人口流出に対し歯止めが利かない状

況の中ではありますが、大胆で繊細な施策の展開が必要ではありませんか、お尋ねします。閉鎖的ではなく開放的な行政運営ができるよう島民の知恵や民間の考え方などを積極的に取り入れ、官民一体で次の対馬づくりに取り組むことを望んでおります。

次の時代に内外の青年たちに託すべき道を開いていきたいという思いが私どもはあります。次に続く人たちのために、市長、ここで一言コメントがほしいんですけど何かありませんか、よろしくをお願いします。

○議長（初村 久蔵君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私の政治に関するというか、向けた方針でございますけども、1期目から「守破離」という言葉を使っております。守破離の「守」は、先ほど議員おっしゃられたように、最初は前任のいろいろな政策を勉強しながら政治に集中していく。2番目には、守破離の「破」は、それを今度はいろいろな工夫をしていきながら極めていく。そして、3番目の「離」で、完全に今までの「守」「破」とまた違った形で、新たな形でもやれるように変化しながら自分の方針を目指していくという言葉でございます。

その守破離の「離」に向かいまして、今回3期目を頑張ってまいろうという決断をしております。そういう中、今このSDG s 関連も先ほども若干申し上げましたけども、いろいろな企業のほうから御協力がありまして、来年1月には対馬のこの海ごみ関連とかエネルギー関係に特化した会社をここ対馬で立ち上げるということまで実はいただいております。

これは、この12月の3日に米韓の大使様が対馬に漂着ごみを視察に来られて、そして私も共に漂着ごみを回収しながら今後の日米韓のシンポジウムのこと等をお願いもしてまいったわけでございますけども、こういった関係でこれからここを突破口といたしまして、今後まだまだ企業誘致等に邁進してまいりたいと考えているところでございます。御理解をお願いいたします。

○議長（初村 久蔵君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。先ほども言いますように、比田勝尚喜氏を決して批判はしておりません。そういった意味で、期待をしております。そこを御理解してください。

そういった流れの中から比田勝市長の信念であります守破離の話も、分かるような分からんような認識でございますが、いずれにしても仕上げをやるというふうに私なりに理解をしたと思っております。

そういった中で、各施策に日々努力してあることは、もう皆さんが既に御承知のとおりです。先ほども言いますように、しかしながら現実には現実ですから、毎年毎年人口流出を止め切らないわけですから。その現実をどう捉えるかということが、市長が次の展開へ臨む姿勢ではなかろうかなと思っております。

私の考え方は、地域に住む人たちが、ここに住んでよかったというふうに、まず納得せんことには流出は止まらないと思っておりますので、ここを踏まえて再度、認識していただきたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

それでは、最後の問題でございますが、この問題は、冒頭の答弁の中で市長が、自分の任期中は、という話で明確になされてありますので、これ以上の話はするつもりはございませんけれども、私がこの最終処分に関する法律の中で管轄する市町村の意見を十分尊重するということが明確になっておるわけですが、今回、市長は非常にここは苦しかったのかなと思っております。しかしながら、この23年の——2023年です——4月の岸田政権でも、この管轄する市町村の意見を十分に尊重するということがまたうたわれてありますので、逃げようがないんです、ここは。だから正々堂々と市長、なされていいんじゃないかなと思っております。

ただし、あくまでも対馬愛が発揮できていればの話でございます。先ほど冒頭に話がありましたから、合意形成が調ったら逆に推進もあるのかという問いを仕方なくやっときますけん、市長どうでしょうか、ここは、合意形成が調ったら。

冒頭にも話してますように、市長は5項目について丁寧に説明してあるんですよ。だから、それに対して総合的に合意形成がと結んであるわけです。だから、合意形成とはどういうことかということになるじゃないですか。互いの意見が一致できる、これが合意形成というんですが、それはいろんな、市長が5項目を挙げてありますけれども、これは見解の違いじゃないですか。その辺も含めまして、ここをもう一度、合意形成についての御回答の文面をもう少し詳しく教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私は5点にわたって説明を申し上げたところでございますけれども、この中でも特に市民が一番心配されているのは、安心、安全についてでございます。

そのような中で、この安全、安心について、現段階では、このリスク管理や事故発生時の対応とか、そういったところが不安があるというようなことで市民の理解がまず難しいというようなことで、推進される側と反対される側については、ここが、合意形成が難しいのではないかなというようなことで、この合意形成が今後、必要となるということで申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長の説明の合意形成とは、双方が納得すれば、また考え方も変わると捉えられがちですよ、そういう優柔不断な話をしていたら。そういうことじゃなくて、この問題はもう少し分かりやすく考えたら分かるじゃないですか。自分の家のごみを他人の家に置きますか。市長、あんたの家の隣に置く、置かんじゃないですか。それが基本中の基本じゃないですか。そういうように難しく考えんでもいいんです。

ただ、通告もしておりますが、衰退し行く対馬の中でいろんなことを考える人も、それも1つの案かなと思う案も出てくるじゃないですか。そういう中でやっぱり今大事な決断力というのは、私が冒頭から話しますように、そこじゃないかなと思っておりますので、市長。

だから、今言う本当で対馬市が責任を取るんじゃないくて、政府そのものがそういうばらまきといいですか、そういった餌をぶら下げて納得させるような強引なやり方がいかなものかなということじゃないんですか。

もう少し遠慮がなく、そういう話をすばっとやっていただいて、市民が安心できる比田勝市政の施策を明確にさせていただきたいなとこのように思っておりますが、市長、最後にどうですか。推進する、しないということよりも、安全、安心に暮らすためにということをおっしゃっておられますので、皆さんが納得いくように、経済が再生するように、みんなが安心するような考え方を次の3選へ私どもかけておりますので、よろしく願いして私の会派代表質問とかえさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで対政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からいたします。

午前10時50分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、会派代表質問を行います。新政会、8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） おはようございます。新政会代表の船越洋一でございます。会派を代表して、市長並びに教育長に2点質問をいたします。

市長に報告をいたしておきたいと思いますが、去る11月28日から12月1日まで東京のほうに我々2会派で行ってまいりまして、これは政務活動費を利用させていただいて、新政会、創政の2会派10名の合同で東京のほうに行ってまいりました。

衆議院議員、参議院議員の先生方に表敬訪問をし、対馬の現状あるいはお願い事もしてまいりました。意見交換もさせていただきましたが、その中で、自民党本部で萩生田政調会長と面会し、対馬の観光面での懸案事項であります観光バスの駐停車場所について、旧巖原幼稚園跡地を利用できるよう陳情・要望をいたしました。その席には、文化庁の文化財課長、課長補佐も同席をされており、課長の話では、対馬市の計画どおり許可することとありましたので、12月4日に帰ってまいりまして、12月4日の15時より観光交流商工部と文化財課と協議をして、今後、県とも協議を進めていただきたい、それで方向性をしっかりとつくっていただきたい、そういう